

## 67 学院視覚障害学科の「あり方検討」に係る調査結果について

学院 視覚障害学科 小林 章，松崎純子，野口忠則

学院視覚障害学科は平成 2 年に開設され今年で 25 年を経過し、これまでに 209 名の卒業生を排出している。学科応募者は開設後 4 年目から 20 名を超え 16 年目の平成 17 年度までは比較的多数の応募があったが、翌 18 年度から下降し始め、直近 4 年間は 10 名を切る状態で推移している（図 1）。当学科は平成 10 年度までは 1 年制の課程であったが、11 年度から 2 年制の現課程になった。2 年課程移行の際にはカリキュラムを大幅に見直し、それまで中途の全盲の視覚単一障害者に対する訓練を提供できる技能、知識の獲得が主な目標であったが、高齢者、重複障害、ロービジョンにも対応できる訓練士養成を目的として多くの新たな科目を導入した。ロービジョン、高齢、重複障害の 3 つについては日本の視覚障害リハの重要なキーワードであり、今日の対象者ニーズにはマッチするものと判断しているが、学科の応募者数、卒業生数が低迷を続けている状況（図 1～図 3）を鑑みれば現在の養成のあり方を検討する必要性があると考えている。

以上の理由から、今年度後半にあり方検討会の開催を予定しているが、その検討の資料とするため卒業生の現況調査を平成 27 年 11 月 1 日現在で行っている。この調査の目的は、学院視覚障害学科における養成が社会および訓練現場のニーズ、さらには学生のニーズにマッチしているかを検討するための資料を得ることである。具体的には、①卒業生が卒業後に就いた業種、職名、業務内容、給与等の状況について、②学院で学んで役に立った科目、役に立たなかった科目、学科の科目にはなかったが入れるべき科目、学科への要望事項などである。

予行集作成段階で調査が完了していないため、調査結果については業績発表会の場で報告する。

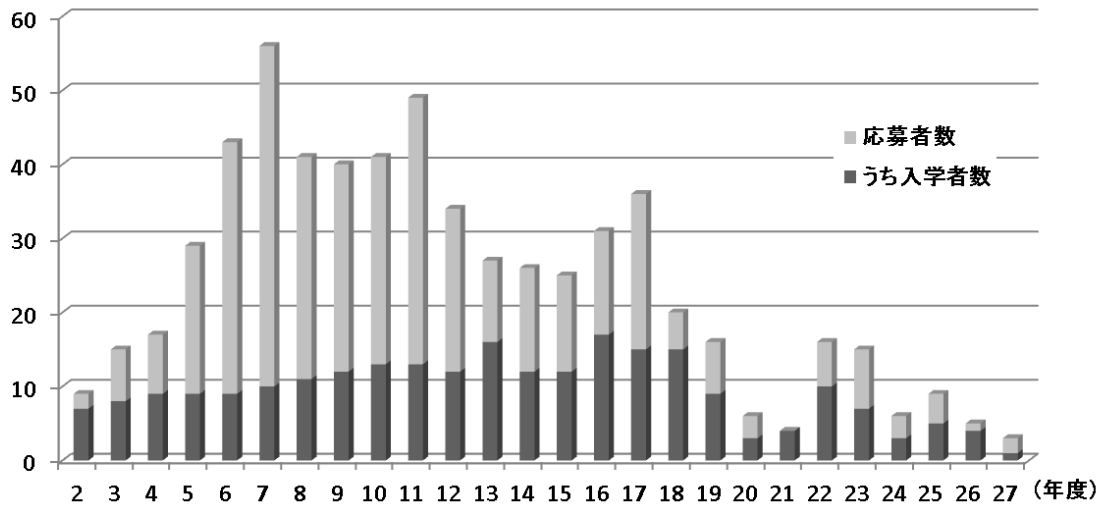


図1 応募者数・入学者数の状況

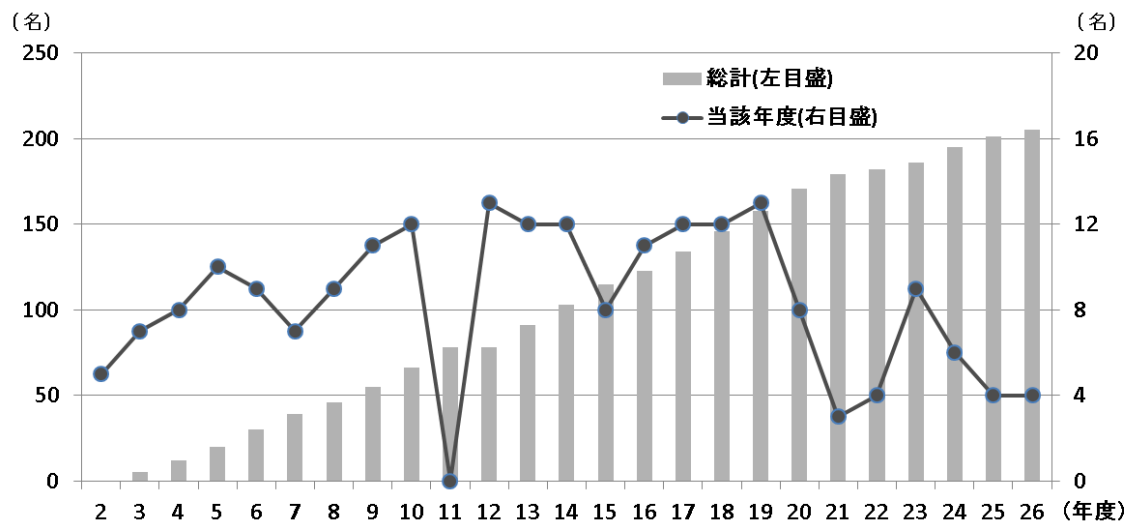


図2 卒業者数の状況

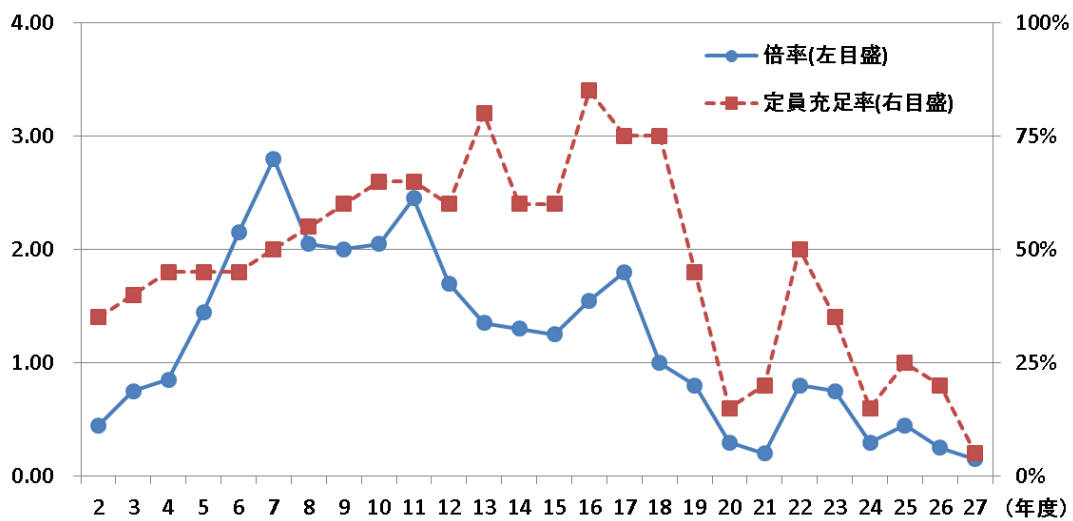


図3 倍率・定員充足率の状況